

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—12615

⑤ Int. Cl.³
A 47 B 67/02

識別記号

庁内整理番号
6759—3B

④ 公開 昭和58年(1983)1月24日

発明の数 1
審査請求 有

(全 8 頁)

⑭ 化粧鏡装置

門真市大字門真1048番地松下電
工株式会社内① 特 願 昭56—111252
② 出 願 昭56(1981)7月15日
③ 発 明 者 石神己千夫④ 出 願 人 松下電工株式会社
門真市大字門真1048番地
⑤ 代 理 人 弁理士 石田長七

明 細 書

1. 発明の名称

化粧鏡装置

2. 特許請求の範囲

(1) 壁面に配設した主鏡の側方にて壁面にサイドキヤビネットを配設し、扉枠に副鏡を取付けて形成した扉をサイドキヤビネットの前面開口に水平回動して開閉自在に取付けて成る化粧鏡装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は化粧鏡装置に関し、壁面(1)に配設した主鏡(2)の側方にて壁面(1)にサイドキヤビネット(3)を配設し、扉枠(4)に副鏡(5)を取付けて形成した扉(6)をサイドキヤビネット(3)の前面開口に水平回動して開閉自在に取付けて成る化粧鏡装置に係り、その目的とするところはサイドキヤビネットの副鏡を利用して後姿見を行なうことができる化粧鏡装置を提供するにある。

以下本発明を実施例により詳述する。第1図は本発明の一実施例を示すもので、壁面(1)には主鏡

(1)

(2)が直接取付けてあり、主鏡(2)の下方に配設した洗面台付きの洗面ユニット(4)の側部にサイドキヤビネット(3)が設けてあつて、このサイドキヤビネット(3)の上部は主鏡(2)の側方に位置せしめてある。サイドキヤビネット(3)の前面が開口する収納部(7)には、四角枠状に形成した扉枠(4)が収納部(7)の主鏡(2)側の側端に軸(8)で枢着してあり、扉枠(4)を水平方向に回動自在にしてある。また扉枠(4)前面側には鏡面が表側になるよう副鏡(5)が取付けてあり、扉枠(4)に副鏡(5)を取付けることで扉(6)が形成してある。この副鏡(5)は主鏡(2)側の端部の上下に設けた枢軸(9)を扉枠(4)の上下端部に設けた溝(図示せず)にスライド自在に挿入することにより扉枠(4)に取付けるようにしてあり、従つて副鏡(5)は扉枠(4)の主鏡(2)と反対側へスライドして突出させることができ、さらに扉枠(4)より突出した状態で枢軸(9)を中心として水平回動できるようにしてある。

しかし、上記の如く形成したものを使用するにあつては、先ず第2図(a)のように副鏡(5)をス

(2)

ライドさせることにより扉枠(4)の開口を露出させ、この扉枠(4)の開口よりサイドキャビネット(3)の収納部(7)に物を出し入れすることができる。また第2図(b)のように扉枠(4)を回動することで副鏡(5)をサイドキャビネット(3)より主鏡(2)側へ突出させることにより、副鏡(5)で後姿を映しこれを主鏡(1)を介して見ることにより後姿見を行なうことができるが、主鏡(1)と副鏡(5)との間に入が入つて後姿見をする場合には主鏡(1)と副鏡(5)との間の距離は大きな寸法を(例えば40cm以上)要し、第2図(b)の状態では不充分である。この場合には第2図(c)のように副鏡(5)をスライドさせて主鏡(1)と副鏡(5)との距離が大きくとられるようにし、さらに第2図(d)のように副鏡(5)を扉枠(4)よりスライド突出した状態で水平回動することにより、後姿見が一層やり易くなり、またこの副鏡(5)の回動角度の調整で後姿の見る位置を任意に調整できるものである。

尚、副鏡(5)を扉(4)に対してスライド及び回動自在にせず第3図のように副鏡(5)を扉(4)に固定して

(3)

上記各実施例では主鏡(2)を直接壁面(1)に取付けたが、第7図や第8図に示すように、キャビネット本体(11)の中央前面に主鏡(2)を取付けてこのキャビネット本体(11)の両側にサイドキャビネット(3)を形成するようにし、キャビネット本体(11)を介して主鏡(2)を壁面(1)に取付けるようにしてもよい。第7、8図中(4)は照明部である。サイドキャビネット(3)は両側に設けず片側だけであつてももちろんよい。また第7図のものは主鏡(5)が副鏡(2)より凹んだ位置に設けられているもの、第8図のものは主鏡(5)が副鏡(2)と面一の位置に設けられているものである。このものにあつては、扉枠(4)は主鏡(2)側の端部で収納部(7)の前面に軸(8)にて水平回動自在に取付けてあり、また副鏡(5)は第1図の場合と同様に扉枠(4)にスライド自在でかつ回動自在に枢軸(9)によつて取付けてある。従つてこのものにあつては第7図(c)、第8図(c)や第10図(a)のように副鏡(5)を外側へスライドさせることによつて扉枠(4)の開口を露出させてこの状態でサイドキャビネット(3)の収納部(7)に物を出し入れすることがで

(5)

あつても、第2図(b)の場合と同様に副鏡(5)を用いて後姿見をすることは可能ではある。

第4図の実施例はサイドキャビネット(3)の収納部(7)の主鏡(2)と反対側の側端部に扉枠(4)を軸(8)で枢着するようにしたものであり、この場合は鏡面を表側と裏側に有する副鏡(5)を扉枠(4)の主鏡(2)側の側端に枢軸(9)で水平回動自在に取付けてあり、第4図(c)のように扉枠(4)を若干回動した状態で副鏡(5)を扉枠(4)に対して回動して扉枠(4)より主鏡(2)側へ突出させ、後姿見を行なうことができるものである。この場合第4図(a)のように副鏡(5)を回動させず扉枠(4)のみを回動させた状態でも後姿見は可能である。また上記第4図の実施例では副鏡(5)を扉枠(4)に回動自在に取付けたが、第1図の場合と同様に副鏡(5)を扉枠(4)にスライド自在に取付けて、第5図のように副鏡(5)を引き出すことにより突出させて後姿見ができるようにしてもよい。さらに第4図の場合のように扉枠(4)の表側に副鏡(5)を取付けず、第6図のように裏側に取付けるようにしてもよい。

(4)

きる。この場合、収納部(7)の前面開口に内側へ回動して開く扉を取付けたもののように主鏡(2)の前に立つ人にとつて扉が邪魔になつて収納部(7)への物出し入れが行ない難くなるようなおそれなく、収納部(7)への物出し入れが容易に行なえるものである。またこのように副鏡(5)を扉枠(4)よりスライド突出させると共に第9図のように扉枠(4)を回動させることもできる。

上記のように形成したものにあつて、使用にあつては、第10図(b)のように扉枠(4)を主鏡(2)側へ回動させ、さらに第10図(c)のように副鏡(5)をスライドして扉枠(4)より突出させ、この状態で副鏡(5)を第10図(d)のように主鏡(2)側に回動することにより、扉枠(4)の寸法分主鏡(2)と副鏡(5)との間の距離を大きくとつた状態で後姿見をすることができ、主鏡(2)と副鏡(5)の先端との間の距離を大きくとるために副鏡(5)を大きく形成するような必要がなく、キャビネットをコンパクトに形成することができるものである。またこの場合、主鏡(2)の位置を第7図のように凹ませたものは主鏡(2)と副鏡

(6)

(6)との間の距離をより大きくとることができて一層都合がよい。尚、第10図(b)~(d)の操作において、副鏡(6)のスライドと扉枠(4)の回転とを逆の順序で行なうようにしてもよいのはもちろんである。

第7、8図のものにあつては副鏡(6)を扉枠(4)にスライド自在にしたが、スライド自在にすることなく第11図に示すように主鏡(2)と反対側の端部にて副鏡(6)を扉枠(4)に枢軸(9)にて水平回転自在に軸着するようにしてもよく、この場合の第11図(a)のように副鏡(6)を外側へ回転させて扉枠(4)の開口を露出させることによつて、収納部(7)への物の出し入れをすることができ、また第11図(b)のように扉枠(4)を主鏡(2)側へ回転すると共に副鏡(6)を回転することによつて、第10図(d)の場合と同様に後姿見をすることが出来る。このとき、第10図(d)の場合と同様に扉枠(4)の回転角度や副鏡(6)の回転角度の調整で後姿の見る角度を任意調整できるものである。

上述のように本発明にあつては、壁面に配設し

(7)

の上断面図である。

(1)は壁面、(2)は主鏡、(3)はサイドキャビネット、(4)は扉枠、(6)は副鏡である。

代理人 弁理士 石 田 長 七

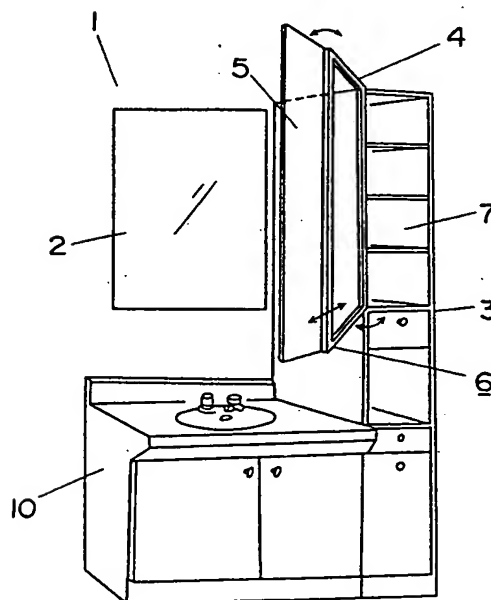
た主鏡の側方にて壁面にサイドキャビネットを配設し、扉枠に副鏡を取付けて形成した扉をサイドキャビネットの前面開口に水平回転して開閉自在に取付けてあるので、副鏡をサイドキャビネットより回転させることにより、サイドキャビネットの副鏡を利用して主鏡と副鏡とで後姿見を行なうことができるものである。

4 図面の簡単な説明

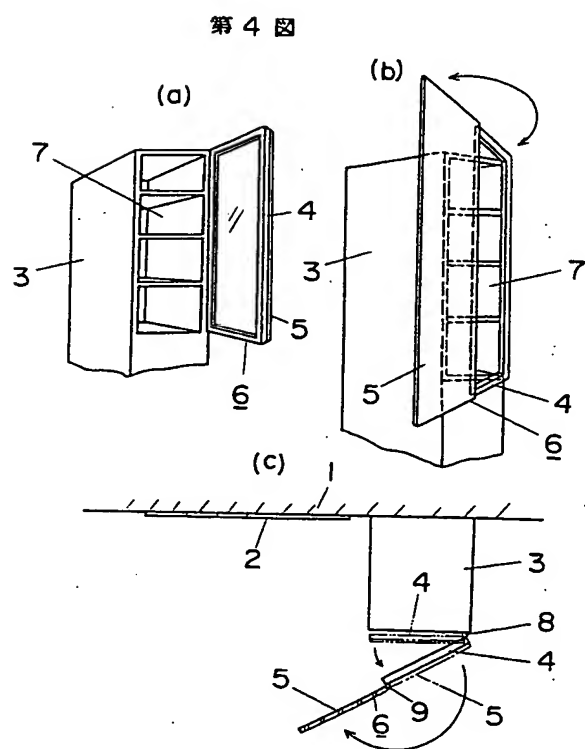
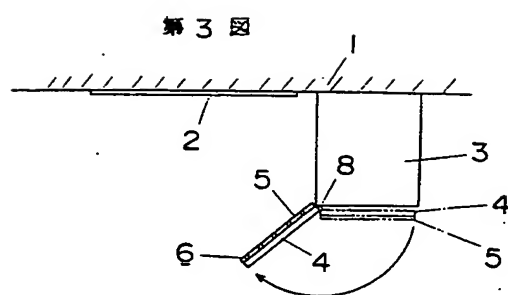
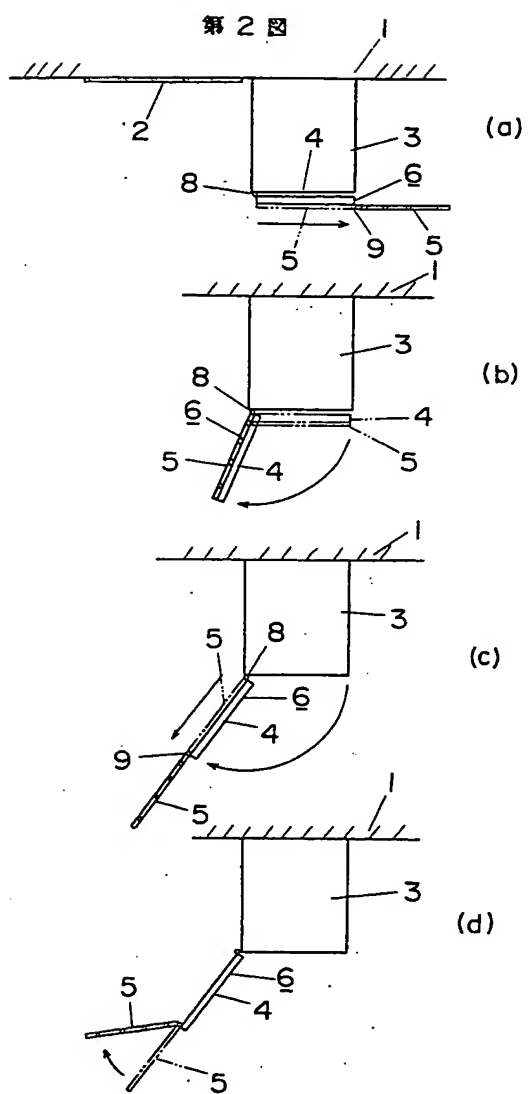
第1図は本発明一実施例の斜視図、第2図(a)~(d)は同上の使用の動作を示す上面図、第3図は同上の他の実施例の上面図、第4図(a)(b)(c)は同上のさらに他の実施例の斜視図、斜視図、上面図、第5図は同上のさらに他の実施例の上面図、第6図は同上のさらに他の実施例の上面図、第7図(a)(b)(c)は同上のさらに他の実施例の斜視図、上断面図、使用状態の斜視図、第8図(a)(b)(c)は同上のさらに他の実施例の斜視図、上断面図、使用状態の斜視図、第9図は第7、8図の実施例の使用状態の斜視図、第10図(a)(b)(c)(d)は同上の使用の動作を示す上断面図、第11図(a)(b)はさらに他の実施例

(8)

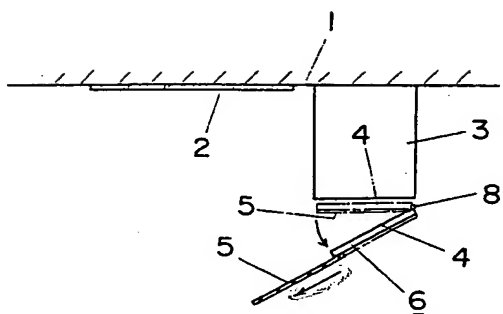
第1図



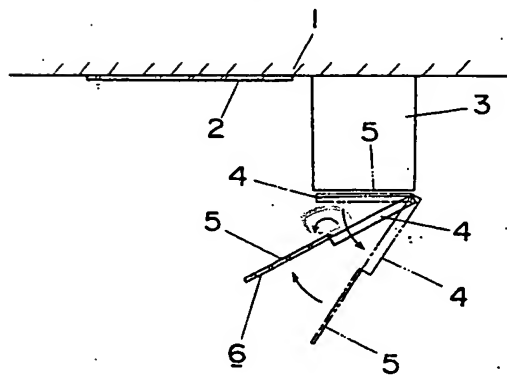
(9)



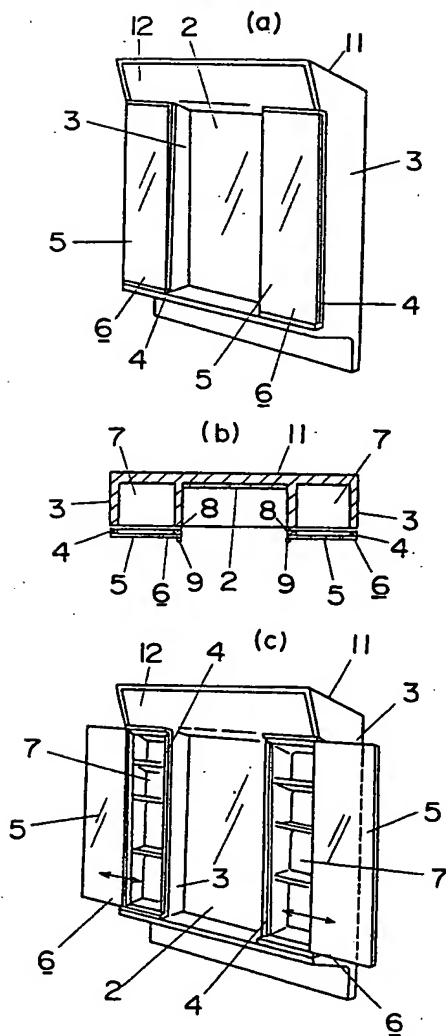
第5圖



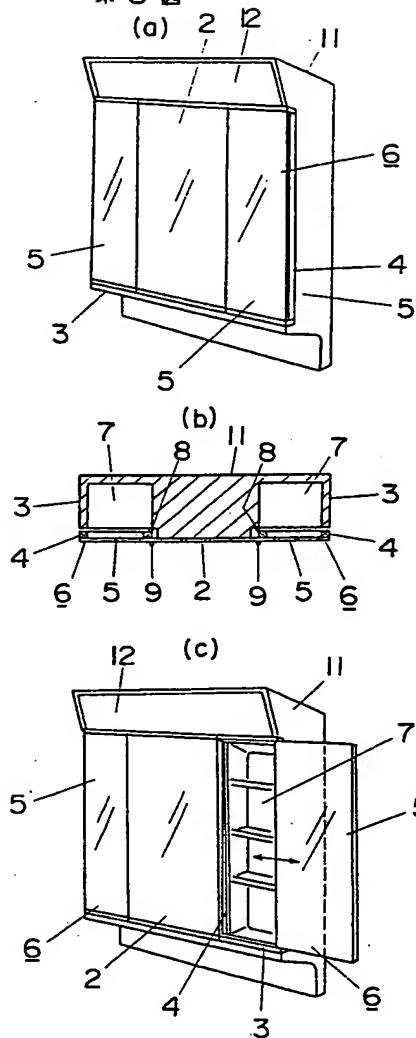
第6圖



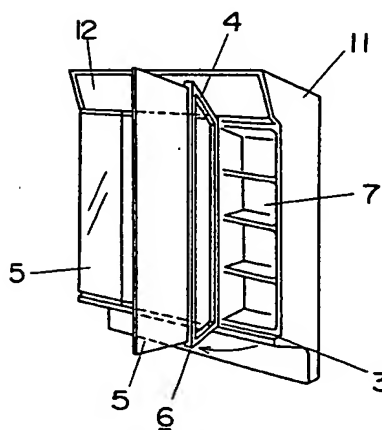
第7圖



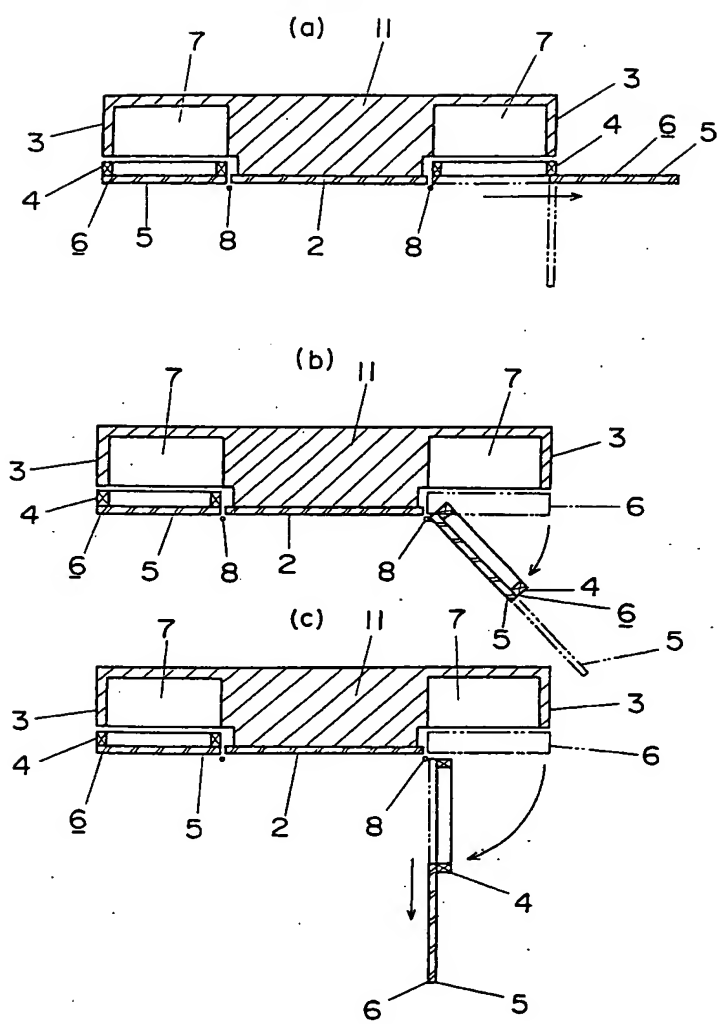
第8圖



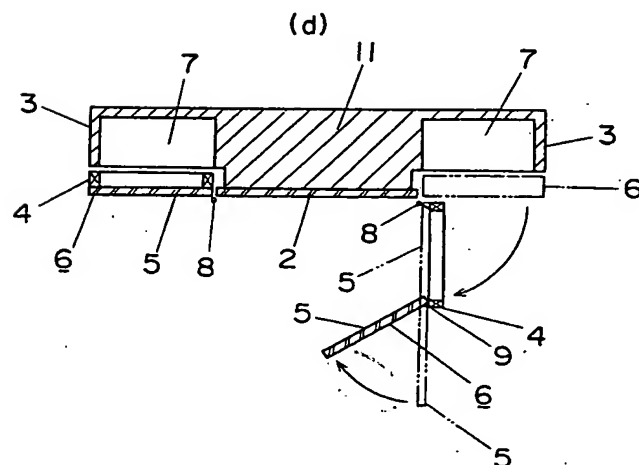
第9圖



第10図



第10図



第11圖

